

令和6年9月24日

浜田市議会議長 笹 田 卓 様

議員名 芦谷英夫

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

- 1、視 察 先 大田市（あすてらす）
- 2、視 察 事 項 遺伝子ワクチンと日本人の命運～子どもたちを守るために～
- 3、視察の目的（市政との関連など） 10月から新型コロナワクチンの定期摂取が始まり、その安全性の是非が問われており、先進例など調査研究
- 4、期 日 令和6年9月15日（日）
- 5、経 費 交通費 4,380円（JR往復）
駐車料 400円
計 4,780円
- 6、視察のポイント・議員活動や市政への反映など
詳細は視察内容（所感）に述べているが、視察した事項について、議会活動、政治活動の参考とする
- 7、視 察 内 容 別紙のとおり
- 



「遺伝子ワクチンと日本人の命運～子どもたちを守るために～」

令和6年9月24日

- 1 日 時 令和6年9月15日（日）18時～20時30分
- 2 場 所 大田市（あすてらす）
- 3 演 題 「遺伝子ワクチンと日本人の命運～子どもたちを守るために～」
大阪市立大学医学部名誉教授 井上 正康

4 概 要

- ① 人類の歴史は飢餓や感染症との戦いの歴史で、感染症の様相は時代によって大きく変化し、原始狩猟社会では野生動物との接触、農耕社会の発達で人の密集生活がはじまり、家畜からヒトへ、ヒトからヒトへ感染が拡大し、蚊が媒介するマラリア、交通手段の発達によりペスト、天然痘、コレラ、結核などが世界的に流行した歴史がある。
- ② 太古～1945 年はペスト・コレラ、1889 年～2019 年はロシア風邪 100 万人死亡、1918 年～スペイン風邪で1 億人死亡、2002 年SARS（中国・広東）、2012 年MERS（中国・韓国）、2019 年～現代はSARS-CoV2→新型コロナウイルスへと進化した。
- ③ 新型コロナウイルスは、2023 年5 月から感染症法の扱いが5 類に変更され、それまでの全数把握から、全国 5000 の医療機関の状況をもとにした定点観測へと変わり、現在では1 医療機関あたりの感染者数の平均値（速報値）が、厚生労働省から1 週間ごとに公表されている。
- ④ mRNAワクチン「自己増殖型レプリコワクチン」による接種が始まるが、このワクチンの効果に疑問が出され、重い副作用を生むと指摘されており、世界では承認されていないが、日本政府だけが承認している。一般的にワクチンに対しては効果の持続性、その安全性に疑問が投げかけられている。
- ⑤ mRNA遺伝子の持つスパイクは、血管を傷つけ血管障害、血圧異常から血栓症、循環障害を引き起こすとされ、①スパイクタンパクに晒される、②変異が起きやすい、③非接種者がワクチンに感染する、④ウイルスに進化する、の4つの懸念がある。
- ⑥ レプリコンとは生物学的用語で、「複製されるRNA（またはDNA）」のことで、レプリコンワクチンとは、注入されたmRNAが自己複製されるワクチンであり、コロナワクチンが、当初期待されたほど有効でなかった理由の一つは、ワクチンの効能が短期間で失われたことにある。
- ⑦ レプリコンワクチンは一度接種すればワクチンの有効成分（mRNA）が自己複製され、その結果ワクチンの効果も長持ちすると考えられているが、これは2つの理由から否定されている。(1)コロナワクチンの効果が短期間で失われるのは、ワクチンの効果が減少するからではなく、ウイルスが短期間で型を変えことにあり、新型コロナウイルスは、武漢株、アルファ株、デルタ株、オミクロン株などに変化してきておりワクチンの効果が長続きしない。
- ⑧ (2)mRNAワクチンは新型コロナウイルスの爆発的感染をきっかけに誕生したまったく新しいタイプのワクチンで、導入当初はmRNAを体内に入れて安全性は担保されるのか疑問の声がある。が、行政や感染症専門医らはワクチンとして体内

に注入されたmRNAはすぐに分解されるとし、厚生労働省のサイトには、注射するmRNAは短期間で分解されると掲載している。

- ⑨ 新型コロナワクチン接種が10月1日に始まると報道されたのは、7月中旬でありこれまでのように無料ではなく、65歳以上及び重症化リスクが高い60～64歳を対象とした定期接種となり、自己負担は7000円の見込みで、定期接種対象外の方は任意接種で費用は未確定である。厚生労働省は約3224万回分のワクチンを供給できると見込み、うち427万回分がレプリコンワクチンとされている。
- ⑩ 高知大学皮膚科佐野栄紀特任教授は、86才日本人女性が、ファイザーのmRNAワクチンを2回目接種した後に融合性斑状丘疹状紅斑を発症し、皮膚病変は時間の経過とともに広がり3か月以上続いた症例をもとに、ヘルペス皮膚病変からワクチンの作るスパイク蛋白へと変異し、効果はなくひどい副作用を生む製剤と指摘し、接種によって罹患しやすくなる。医師には予見可能性と危険回避義務があるとしている。
- ⑪ 静岡市立病院は、医学的見地から真に必要な感染防止策を行うことが重要で、常時マスクを着用することで、新型コロナウイルス感染症発症を抑える効果は認められない、とホームページで公開している。

5 所 感

- ① 新型コロナの感染状況を振り返ってみると、令和2年4月の第1波から始まり、令和3年、令和4年と感染の波が押し寄せ、令和4年12月の8波まで猛威をふるう。令和2年3月全国小中高一斉休校、同4月アベノマスク国民1人2枚配布、令和3年2月ワクチン接種が始まる、の経過をたどっている。
- ② ワクチンに対して、接種して頭痛・めまい・倦怠感など体調の異変を訴える人、風邪が治りにくくなった、周りでがんや病気が増えた、救急車のサイレンが増えた、死者の増加や出生数の減少などを指摘する声があがっており、ワクチンやマスクの効果について改めて検証が必要である。
- ③ 調べてみると、全国の死亡者数は令和2年度から3年度に9・2%増え、4年度はさらに9・0%増え5年度も高止まりし、島根県では令和2年度から3年度に2・7%増え、4年度はさらに6・0%増え5年度も高止まりし、浜田市は令和2年度から3年度に14・4%増え、4年度はさらに4・3%増えているが、5年度は減少している。浜田市の出生数は5年度243人でこれまでで最少となったが、新型コロナウイルスやワクチン接種との関連性はないのか検証する必要がある。
- ④ 浜田市では10月から65歳以上、60～64歳で基礎疾患を有する人を対象としてワクチン接種が始まり、使うワクチンの種類はまだ決まっておらずワクチンの選択は医療機関が行うとしているが、以上記述した指摘や懸念に対して、専門家や医療機関の意見を伺う、国や県に問い合わせなどの調査が必要である。
- ⑤ 海外ではコロナワクチンもマスクも終わっているとされ、この日の大田会場は満員で、しかもマスクをしている人は少なく、ワクチンに懸念を示す人、問題意識のある人は既に行動しているのではと感じた。講演は医療関係者が発起人となって企画され、14日の松江市を皮切りに、15日出雲市平田町、雲南市と大田市、16日安来市、米子市でも開かれたが、これらの会場すべて満員であることから、mRNAワクチンやレプリコワクチンへの関心の高さが伺える。 —以上—